

進捗状況の概要

- ① 平成 27 年度の実施状況として、まず、組織的に取り組む新たなラーニングモデル「反転授業型アクティブ・ラーニング」について、既存の英語 e ラーニングシステムや平成 26 年度に作成した教材等を活用した授業を行うとともに、嘱託研究員及び臨時的人員を配置して新たな科目の教材開発、授業デザインの設計、シラバス・タスク・教員用指導マニュアルを作成した。反転授業型アクティブ・ラーニングで実施する科目も段階的に増やし、嘱託研究員が授業に加わり開発した教材や授業デザイン等について改良を加えた。また、1 月に反転授業を試行している英語と中国語のクラスで質問紙による調査とグループインタビュー調査を実施し、結果を分析して授業デザインの設計等に活用した。授業外では、学生間および教員と学生間で協働学習できるソーシャルラーニング機能を構築して試用した。

段階的に導入している「初修言語での反転授業型アクティブ・ラーニング」については、他大学で行われている先進的な事例を調査した。課題解決型学習 (PBL) については、平成 28 年度の本格開講 (平成 26 年度にカリキュラム改訂を実施) に向け、教養科目の英語による授業及び新たに開講する PBL 科目の授業デザイン等について準備を行った。

- ② 学生の学修行動や自己調整学習能力の現状を把握するため、4 月に新入生・在学生アンケート、7 月と 12 月に授業アンケートを実施し、授業への取組や予習・復習など学修行動を把握した。第 1 外国語と第 2 外国語の語学力については各言語の学内統一試験や資格検定試験結果の客観的評価を自己分析システムに反映した。各自の学修状況と達成状況を自己分析できるようにし、教員による学修指導にも活用した。また、人間力を図るアセスメントテスト「PROG」を 1 年次生全員に実施 (5 月) し、学生の成長過程を把握できるように、結果をモニタリングシステムに反映した。また、ジェネリックスキル (社会人基礎力) 育成に関する他大学の先進的な事例調査も併せて行った。
- ③ AP 事業を全学的に推進するための取組については、まず、専任教員対象のラーニング・アドバイザー研修を 9 月 (入門編) と 3 月 (応用編) に実施した。また、反転授業型アクティブ・ラーニング及び PBL に関する研修会を 7 月に、AP シンポジウムを 3 月に開催し、全学的な周知を図った。また、上記の学内研修や講演会における他大学の先進事例を参考とし、学生の能動的な学修を促す PBL 科目の導入を教員に働きかけた。
- ④ AP は本学の 5 ヶ年計画で掲げている 6 つの柱の一つである「教育の質保証」の一環として取組んでいる事業なので、年度末 (3 月) に 5 ヶ年計画 (中長期計画) の外部評価委員より、AP 事業に関する取り組みについて外部評価を受けた。AP 事業の推進体制及び平成 27 年度の成果について意見をいただきディスカッションを行った。AP 事業の内容をさらに充実するため、この評価を、次年度の年度計画策定の参考とした。